

【大豆】ハスモンヨトウの生態と防除

令和7年8月

大分県東部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

ハスモンヨトウ生態特徴

- ・生育適温は**25℃**
- ・日暮れから夜間にかけて産卵
- ・年間5～6世代程度発生
- ・大豆生育期間中（7～10月ごろ）は、**2～3世代重ねながら増加。**
- ・**9月ごろ発生量が急に多くなる傾向**
- ・暖冬傾向であれば10月ごろも発生し、被害が大きくなる

生育ステージ	日数
産卵～孵化	4日
蛹	14日
幼虫期	19日
羽化～産卵	2日
1世代	計39～40日

被害
圃場
状況

- ・白変葉が点在
- ・葉裏に群棲

被害 小
すぐに防除

- ・葉の食害が圃場全体で発生
- ・葉脈のみ残る

被害 大
防除しても効果が落ちる

ハ
ス
モ
ン
ヨ
ト
ウ



薬剤
効果

大

小

防除タイミング

白変葉が見られたらすぐに防除！！

・2齢幼虫までは葉裏に群棲する

・被害葉は**白変葉**となる

・3齢幼虫以降は分散し暴食するため、
葉がなくなることもある

・被害が拡大すると、莢が食べられることもある



※注意点※

- ・**白変葉を見つけ、葉裏に群棲を確認したら、葉をちぎり除去。**
- ・食害による減収量が多いのは、**開花後7～20日ごろ（8月下旬～9月上旬）**。**この時期に白変葉が多い場合はただちに防除！**
- ・**IRACコード**が同じ剤は散布しないこと。

資材名	IRAC コード	希釈倍数
グレースシア乳剤	30	2,000～3,000倍
ブロフレアSC	30	2,000～4,000倍
フェニックス顆粒水和剤	28	2,000倍
ノーモルト乳剤	15	2,000倍

※10a当たりの散布水量 100～300L

ミツモンキンウワバにも注意

- ・防除薬剤はハスモンヨトウと同様
- ・食害スピードが速い
- ・見つけたらすぐに防除

